

令和四年三月二十七日

# 第三十六回

# 田辺春季俳句大会

田辺市俳句連盟

田辺市中央公民館

# 公募句【一般の部】入賞者

選者（敬称略）

桐本 美恵子

中野 静子

川口 修

松本 武千代

尾崎 均

樫本 正巳

## 連盟賞

春シヨール二十歳の夢を胸に抱く

大分県国東市

吾亦紅

野の光指に集めて土筆摘む

白浜町

那須 重子

## 秀逸賞

虚空舞ふ火の粉追儼の法螺に舞ふ

みなべ町

武田 恵子

弓を引く鎮守の淑気ひきしぼり

新庄町

松本 武千代

遠足の子ら踏み鳴らす太鼓橋

みなべ町

野口 キヨ子

ややの歩の無敵となりて野にあそぶ

白浜町

山本 容子

# 選者特選賞

## 桐本 美恵子 選

虚空舞ふ火の粉追儼の法螺に舞ふ

みなべ町

武田 恵子

弓を引く鎮守の淑気ひきしぼり

新庄町

松本 武千代

竜天に昇りて那智のざんざ降り

高雄二丁目

山中 晴美

## 中野 静子 選

虚空舞ふ火の粉追儼の法螺に舞ふ

みなべ町

武田 恵子

寡黙にてこころ触れあふ春炬燵

新庄町

松本 武千代

## 川口 修 選

春シヨール二十歳の夢を胸に抱く

大分県国東市

吾亦紅

遠足の子ら踏み鳴らす太鼓橋

みなべ町

野口 キヨ子

松本 武千代 選

春シヨール二十歳の夢を胸に抱く

大分県国東市

吾亦紅

春の月一人一人に届きけり

上富田町

岡本 美恵子

尾崎 均 選

三輪車先頭を行く初詣

みなべ町

武田 恵子

初蝶の黄を弾ませて来たりけり

高雄二丁目

山中 晴美

春一番鳥語さらうてしまひけり

白浜町

山本 容子

樫本 正巳 選

弓を引く鎮守の淑気ひきしぼり

新庄町

松本 武千代

ややの歩の無敵となりて野にあそぶ

白浜町

山本 容子

野の光指に集めて土筆摘む

白浜町

那須 重子

入選 桐本 美恵子 選

白足袋の少女きりりと弓を引く	小野 道山	野の光指に集めて土筆摘む	那須 重子
春シヨール二十歳の夢を胸に抱く	吾亦紅	在りし日の竈の残り香初蕨	片倉 充子
野梅咲く地に移り来てテレワーク	那須 眞千代	こもり居の二人小声で鬼は外	前田 紀代子
つぶらなる眼のごとし犬ふぐり	湯本 康二	ナースコール響く深夜の寒さかな	山西 峰子
初みくじふくみ笑ひをして結ぶ	腰前 八重子	着ぶくれてちよこんと背負ふランドセル	米澤 百
野地蔵に寄り添ふ灯り石露の花	堅田 初子	涅槃の間開け放たれてなほ暗く	米澤 百
深熊野の水を揺さ振り紙を漉く	尾崎 均	甘茶仏そつとまばたきしたやうな	安室 瑳枝
一山の黙の深みへ狩の犬	尾崎 均	家居して初雪の窓開け閉めす	浜岡 美哉子
血圧の折れ線グラフ春の雪	池田 昌子	青竹の幹立春の日を返す	松本 武千代
遠足の子ら踏み鳴らす太鼓橋	野口 キヨ子	寡黙にてこころ触れあふ春炬燵	松本 武千代
悼みてはかの日の笑顔春の月	山中 晴美	ふらここや太平洋をひとつとび	松本 武千代
ややの歩の無敵となりて野にあそぶ	山本 容子	争ひの無き世来い来い春よ来い	堀 あや子
雨音の奏すエチュード春ゆふべ	市田 みさき	母に添ふ仔馬つやつや牧日和	榎本 好子
春の雲くずれて鯉の鱗うごく	堀 朱實	名を呼べば身をすり寄せて来る子猫	岡本 美恵子
置きざりの海星に春の波しづか	中野 静子	亡き犬を思ひ出しゐる春の雪	中野 静子

入選 中野 静子 選

白酒や町家巡りの帰り際	羽賀 明	老いてなほ鍬持つ春や土光る	竹中 秀夫
春シヨール二十歳の夢を胸に抱く	吾亦紅	校章の胸に手を置く受験かな	宮内 信子
梅ふむむ予後八年の空の青	武田 恵子	梅見茶屋灘点描のひかり満ち	桐本 美恵子
半日で組める棧敷や梅見茶屋	島本 美紀	木々の芽や熊野に古き木遣歌	那須 重子
初釜やゆつくり廻す干支茶碗	湯上 ひとみ	退院の老いにこぞるや名草の芽	片倉 充子
恙なき余生のひと日春の雪	堅田 初子	春めくや坪畑の杭打ち直す	片倉 充子
一山の黙の深みへ狩の犬	尾崎 均	なやらひの囃し言葉は母譲り	前田 紀代子
鉋研ぐ明日の段取り日脚伸ぶ	市田 啓子	涅槃の間開け放たれてなほ暗く	米澤 百
海風ぎて冬至の入り日惜しむかな	石垣 実男	爪立ちて幼も拝す花御堂	安室 瑳枝
ふらふらや十回漕いで譲り合ふ	野口 キヨ子	入相の鐘に山里梅白し	坂井 マチ子
大橋の風に声張る寒念佛	野口 キヨ子	春光や綺羅ほどけゆく熊野川	福角 美恵子
月凍てて孤高の光こぼしけり	堀 康代	月光の皓と一輪冬薔薇	松本 武千代
祈る手にひとつのこりし竜の玉	初山 紀子	誕生を待ちて刺繍や春近し	松場 一
小半日父と小さく耕せり	山本 容子	桜貝千里と伝ふ渚かな	榎本 好子
春の雲くずれて鯉の鱗うごく	堀 朱實		

入選 川口修選

岩穿つ波と闘ふひじき鎌

桑原 康宏

野の光指に集めて土筆摘む

那須 重子

急流に二転三転落椿

樫本 正巳

起こされて慌てふためく地虫かな

前田 紀代子

喧騒を離れ野梅の傍に佇つ

那須 眞千代

ナースコール響く深夜の寒さかな

山西 峰子

絵日記に一家総出や初日満つ

武田 恵子

涅槃の間開け放たれてなほ暗く

米澤 百

藏壁の眞白く優し若葉風

愛洲 美好

爪立ちて幼も拝す花御堂

安室 瑳枝

民宿は昭和の匂ひ梅日和

下野原 椰

寒雀無人の牛舎欲しいまま

水野 あき

炭琴の素朴な音色春を待つ

池田 昌子

ひねもすを真青に晴れて建国祭

坂井 マチ子

意気込はまだ衰へず根深汁

松本 武千代

春光や綺羅ほどけゆく熊野川

福角 美恵子

鉋研ぐ明日の段取り日脚伸ぶ

市田 啓子

春眠を貪る母娘日曜日

作田 岳雄

ウオーキングの靴選びをり春を待つ

平田 江津子

誕生を待ちて刺繍や春近し

松場 一

初蝶の黄を弾ませて来たりけり

山中 晴美

長旅の素振りも見せず初燕

山内 恵子

この道は母のふるさと花大根

初山 紀子

毛糸編む漁夫節高の手の巧み

藤原 加代子

ややの歩の無敵となりて野にあそぶ

山本 容子

長屋門くぐりて燕来たりけり

榎本 好子

鳥帰る帰らぬ鳥に声残し

宮内 信子

けたたまし鳴き声残し雉子の逃ぐ

岡本 美恵子

置きざりの海星に春の波しづか

中野 静子



入選 松本 武千代 選

月と星寄り添へる如寒念佛	米澤 百	菜の花や幸せは身ほとりに棲み	桐本 美恵子
白足袋の少女きりりと弓を引く	小野 道山	梅真白こそぞつて天を指してをり	中野 静子
売られたる事も知らずに山笑ふ	川口 修	野の光指に集めて土筆摘む	那須 重子
天空に時に猛りて追儼の火	武田 恵子	着ぶくれてちよこんと背負ふランドセル	米澤 百
冬萌や杖に地球の鼓動聴き	島本 美紀	隠沼のぞめきざわめき芽木の雨	安室 瑳枝
故郷の土手の便りや吾亦紅	愛洲 美好	甘茶仏そつとまばたきしたやうな	安室 瑳枝
恙なき余生のひと日春の雪	堅田 初子	仰向けに寛ぐ如し春の山	小山 裕司
穂の芽の陽に呼び合へる光かな	尾崎 均	子のせりふ親に刺さつて冴え返る	松場 一
ぶらんこを大きく漕いで吹っ切りぬ	榎本 正巳	入学子見知らぬ土地に預けけり	山内 恵子
立ち上がる野火を写して走る水	野口 キヨ子	過疎の地に灯り無くとも春の星	橋戸 千代子
初硯小さき夢よりひとつづつ	平田 江津子	古里に空家増えつつ山笑ふ	榎本 好子
月凍てて孤高の光こぼしけり	堀 康代	鴨帰り山湖静かになりにつけり	榎本 好子
山に生き備長炭の火窯守る	堀 康代	首上げて自己主張せしシクラメン	岡本 美恵子
春一番鳥語さらうてしまひけり	山本 容子	戦没地刻む墓石や冴返る	中島 走吟
小半日父と小さく耕せり	山本 容子	餡ぱんを母と分けあい日向ぼこ	坂本 美子

入選 尾崎均選

忠敬の測量起点草青む

桑原 康宏

春日満ち雑魚駆け巡る潮溜り

桐本 美恵子

大試験母の手縫ひの肌守り

小野 道山

梅見茶屋灘点描のひかり満ち

桐本 美恵子

売られたる事も知らずに山笑ふ

川口 修

木々の芽や熊野に古き木遣歌

那須 重子

千切のこの香この白この軽さ

松本 武千代

野の光指に集めて土筆摘む

那須 重子

成るやうにどうにか成つて去年今年

久保 年生

在りし日の竈の残り香初蕨

片倉 充子

打つ音に進む増築日脚伸ぶ

市田 啓子

麦踏みし昭和の蹠乾びけり

片倉 充子

遠足の子ら踏み鳴らす太鼓橋

野口 キヨ子

不揃いの雲に鳥語や梅日和

久保 久美子

大橋の風に声張る寒念佛

野口 キヨ子

海猫の舞ふ白崎や黄水仙

水野 あき

黒潮のとどろき遠に磯田打つ

堀 康代

ケアケアで人生未だあり屠蘇甘露

木村 閑夫

膨らみの光となれり猫柳

山中 晴美

春光や綺羅ほどけゆく熊野川

福角 美恵子

闇を舐め闇蹴散らして春の猫

榎本 正巳

タープ張り見上ぐる野猿風光る

作田 岳雄

真つ新の靴に下蒔応へけり

土井 明子

雛流すひひなの彩に水を染め

松本 武千代

校門の花菜回りを明るうす

田中 敬子

一陣の風に飛天か梅月夜

中野 静子

真向へる神島荒ぶる熊楠忌

竹中 秀夫

戦没地刻む墓石や冴返る

中島 走吟

さりげなく世の憂さ払ふ春の雪

桐本 美恵子

入選 檜本 正巳 選

後ろ手に隠す妻への冬薔薇

小野 道山

獣ごゑあげて波引く磯うらら

桐本 美恵子

野梅咲く地に移り来てテレワーク

那須 眞千代

置きざりの海星に春の波しづか

中野 静子

寒風に舷が舷打つ船溜り

腰前 八重子

潮の香の咽元すぐる寒海鼠

那須 重子

天空に時に猛りて追儼の火

武田 恵子

みどりがいいランドセル決め風光る

久保 久美子

深熊野の水を揺さ振り紙を漉く

尾崎 均

隠沼のぞめきざわめき芽木の雨

安室 瑳枝

一山の黙の深みへ狩の犬

尾崎 均

甘茶仏そつとまばたきしたやうな

安室 瑳枝

薄水の透かし絵のごと日をとほす

松本 武千代

仰向けに寛ぐ如し春の山

小山 裕司

黄蝶来て仏足石に翅たたむ

山中 晴美

月光の皓と一輪冬薔薇

松本 武千代

横文字の手づくり絵馬や梅三分

市田 みさき

野仏の周りわいわいつくしんぼ

松本 武千代

露味噌のほどよき苦味野の香して

市田 みさき

毛糸編む漁夫節高の手の巧み

藤原 加代子

雨音の奏すエチュード春ゆふべ

市田 みさき

大辺路の波の高鳴り崖椿

榎本 好子

一枚の絵の出来栄えに日脚伸ぶ

土井 明子

着脹れて火に近づきし暮しかな

岡本 美恵子

梅真白採血椅子に浅く掛け

堀 朱實

神妙に猫座りをり涅槃絵図

中野 静子

鳥帰る帰らぬ鳥に声残し

宮内 信子

春雨を少し拾ひぬ植木鉢

山月 恍

鏤むるとは犬ふぐり犬ふぐり

宮内 信子

# 公募句【小学生の部】入賞者

※学年は令和三年度のものです。

## 選者（敬称略）

桐本 美恵子  
浜岡 美哉子

堀 あや子  
山中 晴美

## 連盟賞 【小学生の部】

兄ちゃんの卒業の日のスーツ着る

田辺東部小六年

宮本 祐宇

しおひがりかかっているのみいつけた

田辺東部小五年

川勝 悠勢

## 努力賞 【小学生の部】

転がって成長するぞ雪だるま

田辺第三小五年

田ノ岡 大と

思い出は雪のようにはとかせない

田辺第三小六年

大西 儀徳

さくらまう友と最後の通学路

会津小六年五年

岡本 優花

柚子うかべ浴室香る長湯かな

会津小六年

那須 李菜

ふるえる字こすり合わせるかじかむ手

会津小六年

前芝 茜

五時すぎたひとりぼっちのブランコよ

田辺東部小五年

草羽 星南

ブランコに乗ってるあの子雲の上

田辺東部小五年

森脇 祐人

受け止める汗がにじんだそのバトン

田辺東部小六年

村上 雅紀

ゆきをふむぼくのあしあとちいさいな

芳養小一年

中山 えいた

まめまきでおにがこっそりにげて行く

芳養小二年

なす ゆう生

ねえみてよおせちの中がぱんぱんだ

芳養小二年

まつ原 みそら

カーテンと春風意外と仲良しだ

芳養小五年

金城 櫻

ふと香る窓辺に白いヒヤシンス

芳養小五年

太田 あおい

さくらさく花びらひらりかみかざり

芳養小五年

西前 桃伽

春風が学年一つ押し上げる

芳養小六年

居馬 宙叶

さくら散る校舎を後にさようなら

芳養小六年

中根 珠里

ゆきだるまかえってくるまでとけないで

上秋津小一年

中山 椰聖

汗ふいてやとついたぞ槍ヶ岳

新庄第二小四年

高橋 裕輝

# 入選 小学生の部】 桐本 美恵子 選

ゆきとけてはるのあしおときこえたぞ	本宮小五年	久田里 仁紀	卒業し大人の階段のぼつてく	田辺東部小六年	長野 蒼生
つくしの子ぐんぐんのびてせいくらべ	本宮小五年	谷瀬 陽莉	兄ちゃんの卒業の日のスーツ着る	田辺東部小六年	宮本 祐宇
朝起きる雪いっぱいのぎん世界	田辺第三小五年	津葉井 徠夢	雪だるままんまるおなかポンポコリン	田辺東部小六年	土井 涼太
チョコレート今年はあげたいバレンタイン	田辺第三小六年	惠中 美晴	受け止める汗がにじんだそのバトン	田辺東部小六年	村上 雅紀
思い出は雪のようにはとかせない	田辺第三小六年	大西 儀徳	雪がまいあたり一面夢の国	田辺東部小六年	讓葉 芽依奈
散り桜別れをつげる合図だよ	田辺第三小六年	三栖 穂華	さくらもちおなかいっぱい食べたいな	芳養小四年	木村 歩乃佳
さくらまう友と最後の通学路	会津小六年	岡本 優花	カーテンと春風意外と仲良しだ	芳養小五年	金城 櫻
うかんでる雲が流れるプールかな	会津小六年	野田 彬翔	ふと香る窓辺に白いヒヤシンス	芳養小五年	太田 あおい
おふろにはゆず兄弟がうかんでる	会津小六年	舩原 倅	水たまり桜の花がうつつてる	芳養小五年	山本 雫愛
ブランコで大空つかむさあ今だ	田辺東部小五年	辻 絢花	さくら散る校舎を後にさようなら	芳養小六年	中根 珠里
ブランコに乗ってるあの子雲の上	田辺東部小五年	森脇 祐人	水面に桜の花びら散つてゆく	芳養小六年	原田 尊
みのむしやかくれんぼしよもういいかい	田辺東部小五年	杉原 日葵	ぬけかけのまえばすぽつとふゆのあさ	上秋津小一年	杉若 亮輔
夕ぐれ時空にとけこむあかとんぼ	田辺東部小五年	山本 大惺	ゆきだるまかえつてくるまでとけないで	上秋津小一年	中山 椰聖
春来ると大人になつてく君の顔	田辺東部小六年	岩本 穂乃佳	ひらひらとちようのようにちるさくら	上秋津小五年	池中 美月
花火散りけれども心は咲く頃だ	田辺東部小六年	近藤 智紀	カーネーションやつと一本買えました	新庄第二小四年	佐古 実優菜

入選 小学生の部】浜岡 美哉子 選

絵をかくよ図工の時間春の色	三里小三年	中根 仙太郎	兄ちゃんの卒業の日のスーツ着る	田辺東部小六年	宮本 祐宇
お姉ちゃんこうこう生の入学式	三里小四年	玉置 怜奈	山々は気分を変えて雪げしよう	田辺東部小六年	山本 帆乃香
ふきのとうにがいにがいよ大人の味	三里小四年	塚 咲良	うめのはなかせにふかれてかわいそう	芳養小一年	つじ ゆうしん
外に出て遊びつかれて白い息	三里小五年	中岸 葉菜	こうていの木のはがおちてきみしいな	芳養小一年	ゆ川 ゆうひ
転がつて成長するぞ雪だるま	田辺第三小五年	田ノ岡 大と	こままわしまくのたいへんくるくと	芳養小一年	内山 美乃
さくすがた明るい黄色ミモザだな	田辺第三小五年	鳥山 瑠海	ゆきだるままるくておだんごみたいだな	芳養小一年	大え このか
卒業式わかるる友にありがとう	田辺第三小六年	堀木 朝日	ゆきをふむぼくのあしあとちいさいな	芳養小一年	中山 えいた
雪解で人は皆々外に出る	田辺第三小六年	鈴木 雅虎	雪がつせんみなまつてよぼくもいく	芳養小二年	たまき わかな
さくらまう友と最後の通学路	会津小六年	岡本 優花	まめまきでおにがこっそりにげて行く	芳養小二年	なす ゆう生
ゆたんぼはとてもやくだつお友達	会津小六年	川村 日和	さくらさく花びらひらりかみかざり	芳養小五年	西前 桃伽
ふるえる字こすり合わせるかじかむ手	会津小六年	前芝 茜	さくら散る校舎を後にさようなら	芳養小六年	中根 珠里
クリスマスしろいおひげがやってくる	会津小六年	宮本 斗磨	ゆきだるまとけかけてるよぼくのにお	上秋津小一年	金崎 世樹
しおひがりかくれているのみいつけた	田辺東部小五年	川勝 悠勢	お日さまにあいさつしたよがんとんに	上秋津小一年	芝 まこと
五時すぎたひとりぼっちのブランコよ	田辺東部小五年	草羽 星南	あたまひねりもんだいといたふゆ休み	上秋津小一年	大工 晃
潮干狩り人の足あとだれのかな	田辺東部小五年	丸山 瑠華	ゆきだるまかえってくるまでとけないで	上秋津小一年	中山 椰聖



# 入選 小学生の部】堀 あや子 選

ジャカドンドンジャカドン春が来る	本宮小四年	乾 頼煌	受け止める汗がにじんだそのバトン	田辺東部小六年	村上 雅紀
いなかからたけのこすこいおくりすぎ	本宮小四年	服部 美空	山おくでみんな知らない秋景色	田辺東部小六年	讓葉 芽依奈
黒い服真白になる雪たちで	本宮小六年	田中 莉夢	かまくらにはいつてみたいつくりたい	芳養小一年	みやもと ゆま
極寒で練習するぞ合気道	三里小六年	川上 泰生	ゆきをふむぼくのあしあとちいさいな	芳養小一年	中山 えいた
転がって成長するぞ雪だるま	田辺第三小五年	田ノ岡 大と	ねえみてよおせちの中がばんぼんだ	芳養小二年	まつ原 みそら
青い空風吹くたびに桜舞う	田辺第三小六年	黒崎 莉那	手ぶくろでわたしの心もあつたかい	芳養小二年	かつら り歩
思い出は雪のようにはとかせない	田辺第三小六年	大西 儀徳	たんぼぼが一つはえてた帰り道	芳養小四年	柏木 陽琉
また会おうなみだあふれる卒業式	田辺第三小六年	堤 菜夏	ちる桜うすく地面が染められて	芳養小四年	中 由里奈
柚子うかべ浴室香る長湯かな	会津小六年	那須 李菜	カーテンと春風意外と仲良しだ	芳養小五年	金城 櫻
ふるえる字こすり合わせるかじかむ手	会津小六年	前芝 茜	春の土ふんだらへこむ特別だ	芳養小五年	坂本 裕哉
しおひがrikかくれているのみつけた	田辺東部小五年	川勝 悠勢	夜の空うるんで見える春の星	芳養小五年	濱中 三瑚
五時すぎたひとりぼっちのブランコよ	田辺東部小五年	草羽 星南	春風が学年一つ押し上げる	芳養小六年	居馬 宙叶
どろよこれくつの中には春の海	田辺東部小五年	林 省吾	梅の花町全体を白く染め	芳養小六年	中田 結月
飛びついてメジロ食いつく甘い花	田辺東部小六年	尾崎 仁子	手がまっ赤なわとびとんだふゆのあさ	上秋津小一年	中山 椰聖
兄ちゃんの卒業の日のスーツ着る	田辺東部小六年	宮本 祐宇	汗ふいてやっとなつたぞ槍ヶ岳	新庄第二小四年	高橋 裕輝

入選 小学生の部 山中 晴美

出られないこたつのわなにはまつたら	本宮小五年	川辺 ひおり	雪だるま木とにんじんとあと何だ	田辺東部小六年	山岡 龍弘
つくしんぼながいのどれださんぽみち	田辺第三小六年	辻 桃乃	花見にはママのクッキーさいこうだ	芳養小一年	よし田 いよ
なつかしいプリント発見大そうじ	会津小六年	浅井 貴洋	学校のさかみちふゆげしききれいだな	芳養小一年	太地 蓮
冬の夕地面を照らすまちあかり	会津小六年	小野 真暉	まめまきでおにがこつそりにげて行く	芳養小二年	なす ゆう生
たんぽぼのわたげふわふわどこへいく	会津小六年	川村 日和	ねえみてよおせちの中がばんぱんだ	芳養小二年	まつ原 みそら
母が言うあずかつとくよお年玉	会津小六年	中田 光咲	さくらの木きれいな空とにあつてる	芳養小四年	橋本 遥
柚子うかべ浴室香る長湯かな	会津小六年	那須 李菜	枝垂桜風とぶつかり踊ってる	芳養小五年	金城 櫻
しおひがりかくれているのみいつけた	田辺東部小五年	川勝 悠勢	湖に紅色じゅうたん夢見草	芳養小五年	畑口 繪音
青空へ飛んでいけそうブランコで	田辺東部小五年	武田 彩友香	子猫の目真珠のように美しい	芳養小五年	古川 裕豊
キコキコと乗り手をなくしたブランコが	田辺東部小五年	田中 伶奈	ふと香る窓辺に白いヒヤシンス	芳養小五年	太田 あおい
ブランコに乗ってるあの子雲の上	田辺東部小五年	森脇 祐人	さくらさく花びらひらりかみかざり	芳養小五年	西前 桃伽
二階から体を出して見る火花	田辺東部小五年	長野 暁士	春風が学年一つ押し上げる	芳養小六年	居馬 宙叶
兄ちゃんの卒業の日のスーツ着る	田辺東部小六年	宮本 祐宇	花びらが中学校へ飛んで行く	芳養小六年	中村 迅之介
ひまわりの横に並んで背くらべ	田辺東部小六年	尾原 萌々花	手がまつ赤なわとびとんだふゆのあさ	上秋津小一年	中山 椰聖
雪だるままた降り出して太つちやう	田辺東部小六年	阪野 礼奈	汗ふいてやつとついたぞ槍ヶ岳	新庄第二小四年	高橋 裕輝